

週間展望(4/11～4/17)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ ドル円 ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「6日に3月に開催されたFOMC議事要旨がある。バランスシート縮小に関する議論の内容などが明らかになり、タカ派的な内容の場合は、次回FOMCに向けての0.5%利上げ観測が高まり、ドル円をサポートする要因となりそうだ。(～中略)。季節傾向から4月のドル円の心理的節目125円の攻防が焦点。上値抵抗を受けるのか、乗せてレンジを切り上げていくと上げ加速も。5円程度の切り上がりは早い」とした。先週のドル円は、ハト派として知られるブレイナード理事が「5月にも急速なペースでのバランスシートを縮小」との発言は市場への強いインパクトとなり、円安ドル高進行。
- 3月分のFOMC議事要旨では、「5月にもバランスシート縮小を開始して、月額950億ドルを上限とする」「国債は600億ドル、住宅ローン担保証券(MBS)は350億ドルを上限として、償還を迎えた債券は再投資しない」「ロシアのウクライナ侵攻がなければ、多くの参加者が3月に0.50%の利上げを支持していた」「参加者の多くが今後の会合で0.50%の利上げを1回、または複数回行う可能性に言及した」といった点が明らかになった。
- 先週末のドル円は、米連邦準備理事会(FRB)が金融引き締めを積極化するとの見方から米長期金利が上昇し続け、日米金利差の拡大を見込む円売り・ドル買いが強まった。ユーロは対ドルで小幅に7日続落。フランス大統領選の第1回投票を10日に控え、現職マクロン氏と極右国民連合のルペン氏の支持率が拮抗しているとの報道がユーロの重荷になった面もあった。
- CFTC建玉明細(4/5現在)によると大口投機玉は103,829枚の売り越し。前週(102,131枚の売り越し)から拡大。

ドル円、
再度の上値試し

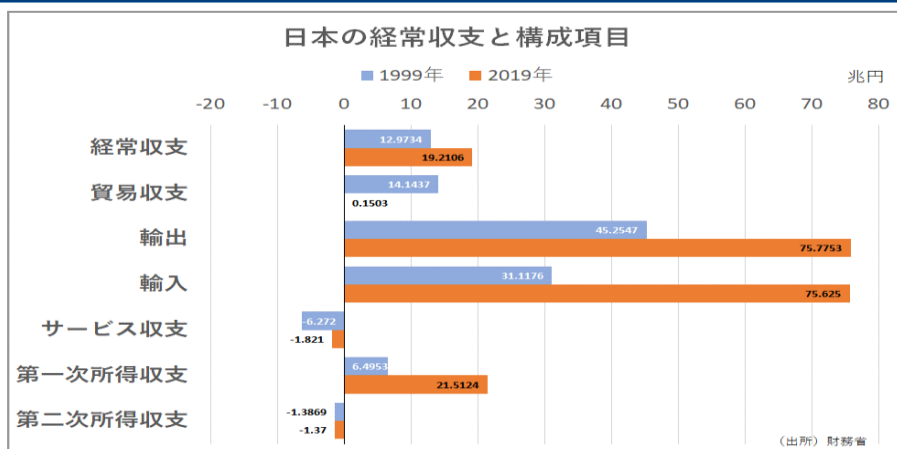
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ドル円～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 日本にとって円安は、プラス・マイナス両面があるが、足元では、「悪い円安」懸念が浮上している。これまでは円安が進行すると、輸出企業にとって海外市場における価格競争力が高まり、純輸出が増えれば、GDPの押し上げ要因となることから日経225の押し上げ要因として捉えられてきた。
- 一方、日本は原油や液化天然ガス(LNG)などのエネルギーのほか、多くの食料も輸入に頼っており、円安が進行すると輸入コスト増で、業績悪化・末端小売の値上がりなどの悪影響が懸念されている。
- 円安に日本株高で反応し難くなっている理由の一つに、日本の経常収支の構造変化がある。コロナ前の2019年と20年前の1999年とを比べてみると、経常黒字は1999年の約13兆円から2019年は約19兆円に増加。ただし、貿易黒字は1999年の約14兆円から2019年は約1500億円に激減している。これは輸入増加(増加率+143.0%)が輸出増加(同+67.4%)を大幅に上回ったため。
- 製造業現地法人の海外生産比率(国内全法人ベース)は、1999年度で11.4%だったが、2019年度は23.4%に増加。各企業の円高対策や安い労働力を求め、日本企業の海外進出が急速に進んだことが背景だ。また、経常収支を構成する第一次所得収支の黒字増加(増加率+231.2%)が顕著だが、これは対外金融資産から生じる利子や配当金などで、経常収支をみる限り、日本は輸出で稼ぐ構造から対外金融資産で稼ぐ構造へと変化したことが円安が株高につながらず、「悪い円安」懸念が高まっている原因と言えるだろう。
- 米国は40年ぶりのインフレで、今後、かなりの金利引上げが不可欠な一方、禁じ手を実施した日銀は、金利を上げれば債務超過で自身の首が絞まる可能性が浮上するため、金利を上げられないという投機的な仕掛けを招きやすい地合い。今週は米国で多くのマクロ経済指標が予定されており、抵抗線の125円を明確に上抜け踏み上げとなれば、5円程度のレンジアップへ。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ 貴金屬市場（金：GOLD）～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《スタグフレーション(物価高と景気悪化の同時進行)リスクが生じている中、金は「地政学リスク」一服による調整安が入っても、インフレリスクと、大幅利上げに伴うFRBの政策ミスリスクの両方に対するヘッジとして、「悪い金利上昇」懸念を背景に、再び買い拾われると見る。リセッションを暗示する逆イールドも発生中》とした。先週のNY金(6月限)は、西側諸国の対口追加制裁が見込まれたことが支援要因になったが、米金融当局者のタカ派発言に上値を抑えられた。

保合いに移行中

- 先週末のNY金（6月限）は続伸した。ウクライナ首都郊外などで民間人の多数の遺体が見つかったことからロシアとウクライナの早期停戦期待は後退しており、対ロシア制裁の長期化観測からインフレ懸念が強まっている。12日の3月の米消費者物価指数（CPI）の伸びが一段と加速するとみられていることも一因。市場予想で前年比の伸びは+8.4%と、前回の+7.9%を上回る見通し。来週のECB理事会で、資産購入プログラム（APP）の段階的縮小が加速する可能性があると言われていたことはユーロの押し上げ要因。
- ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット（LPPM）がロシアの精錬会社との取引停止を発表。ロンドン市場への供給認可を受けた「グッド・デリバリー」精錬所のリストを見直す。LPPMはこのリストに含まれるロシアの製錬所2社の認可を即時停止。この動きが非鉄金属生産大手ノリスキ・ニッケル（ノルニッケル）にも波及するリスクが意識され、白金系貴金属が上昇したことも材料視された。
- CFTC建玉明細（4/5現在）によると大口投機玉は、245,541枚の買い越し。前週（257,596枚の買い越し）から縮小。

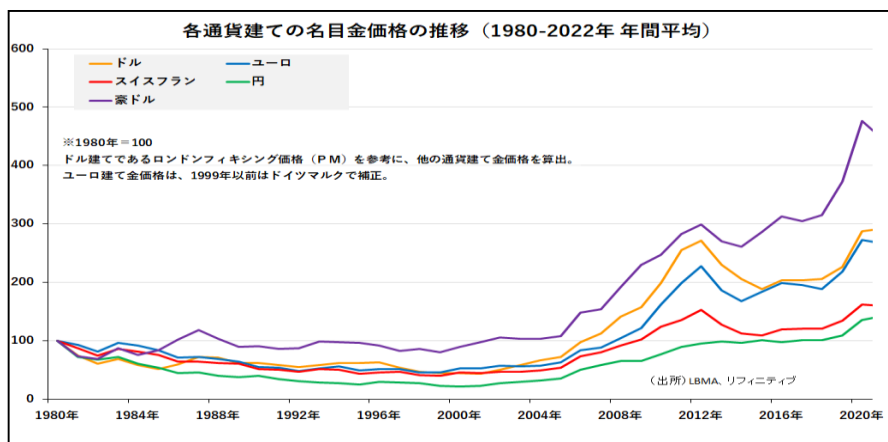
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ 貴金属市場 (金 : GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 米国は40年ぶりのインフレで、今後、かなりの金利引上げが不可欠な一方、禁じ手を実施した日銀は、金利を上げれば債務超過で自身の首が絞まる可能性が浮上するため、金利を上げられず、日米金融政策の違いが明確になっている。
- FRBが注視する個人消費支出 (PCE) 価格指数の伸びは前年同月比+6.4%と前月の+6.0%から加速し、1982年1月以降で最も高くなっている。
- GANNのアニバーサリーデイト(変化が起こり易い日柄)は、4月～5月GWに集中する。ドル円は、125円水準が「黒田シーリング」として意識されているものの、125円を抜けていくと、踏み上げの値動きも想定される。
- 2025年に日本は3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、世界に類を見ない「超高齢化社会」へ突入する。「年金」「財政」など、投機的に仕掛けやすい問題だ。
- 資源のない日本にとって、エネルギー高・食料高の中、円安が進むことが、そのまま「日本売り」にも連想されやすい。中長期的には、20年以内に発生する確率が高いと言われるのが、「南海トラフ巨大地震」「富士山の噴火」。「3.11」の際は、有事の円高となったが、次なる大自然災害の際は、強烈な「日本売り」「円売り」となるかもしれない。
- そのような「悪い円安」が加速した場合、「円建て金」の優位性が注目されそうだ。
- 1990年代はNY金が上昇しても、円建て金は円高進行で上値が抑えられ、世界の中で相対的に最も弱い金価格となったが、悪い円安が進行した場合、NY金の上昇に加えて、円安ドル高が加わり、相対的な割安感の修正と共に、世界で最も強い金価格となるかもしれない。買いを主体とした戦略を継続したい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ 貴金属市場（白金：Platinum）～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「金同様、3月8日に高値を付けた後は、調整局面入りとなっている。2021年12月安値を起点とした上昇チャネルを割り込み、心理的節目1050ドルが上値抵抗、950ドルが下値支持に変化している」としたが、先週のNY白金(7月限)は、ウクライナの戦闘長期化による景気の先行き懸念や米金融当局者のタカ派発言によるドル高を受けて軟調となった。
- 先週末のNY白金(4月限)は、続伸。パラジウムが大幅高となったことに連動した。LPPM(ロンドン・プラチナ・パラジウム市場)がロンドン市場への供給認可を受けた「グッド・デリバリー」精錬所のリストを見直すと発表したことが手ごかり。LPPMはこのリストに含まれるロシアの製錬所2社の認可を即時停止する。
- ロシアとウクライナの早期停戦期待は後退しており、対ロシア制裁の長期化観測からインフレ懸念が強まっている。仏大統領選を控えた模様眺めムードは動意を限定的にした。コロナ禍を通過した後の大統領選であり、感染・景気対策の評価を巡って注目度が非常に高い。3月以降、再選を目指すマクロン大統領の支持率が伸び悩んでいる一方、ルペン氏やメランション氏が支持率を急速に伸ばしている。
- CFTC建玉明細(4/5現在)によると大口投機玉は、11,290枚の買い越し。前週(14,001枚の買い越し)から縮小。

パラジウム高に追随

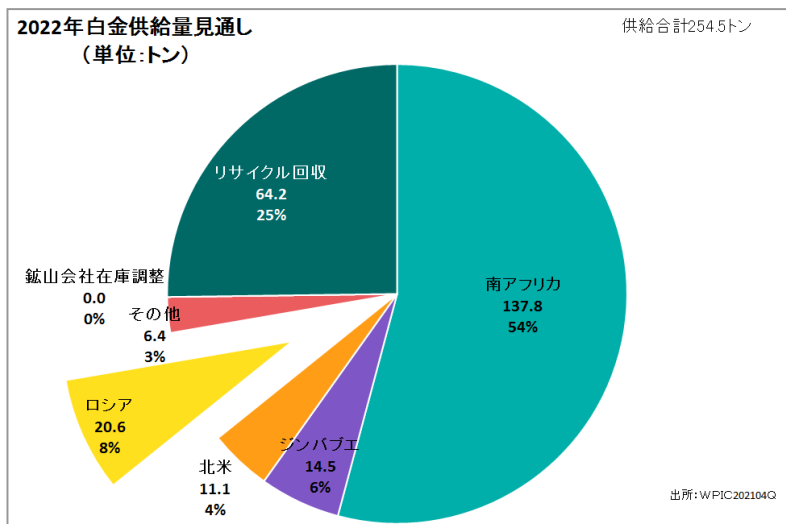
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ 貴金属市場（白金：Platinum）～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)によると、ロシアのウクライナ侵攻を受け、自動車触媒は、世界の4割がロシア産のパラジウムから白金へとシフトする動きが加速する可能性。21年の中国の輸入量は輸出量を引いたネットで109トン。中国国内の需要量68トンを超えて40トン強も超過する輸入量。21年の世界の白金需要は、20年比9%減の218トン。対して鉱山採掘やリサイクルなどを合わせた供給量は、21%増の256トンと38トンの供給超過。計算上、中国の輸入量は世界の供給超過分を吸収した格好。
- 白金は燃料電池車(FCV)など脱炭素で有力視される水素技術に不可欠で、需要増予想が強い中、実需筋が在庫手当てに走っている可能性。中国ではガソリン車用排ガス浄化触媒で、高値のパラジウムから安い白金への代替も進んでいる。
- 米欧の対ロ制裁でパラジウムはロシアからの供給に懸念がくすぶる中、排ガス浄化装置について、白金への仕様変更は数年単位の時間がかかると見られるが、西側諸国がロシアへの資源依存を避ける方向に動けば、中国以外でも代替が進む可能性がある。ロシアの白金生産は世界の1割超で、パラジウムより依存度は低い。米先物取引所在庫を引き出す動きも21年夏以降続いており、中国の過剰輸入やロシア問題が長引けば、白金価格を押し上げる可能性がある。
- ボリンジャーバンドでは、「金買い・白金売り」でのバンドウォークが続いているが、4月のNY白金の月間騰落率は、買い方有利な時間帯。4月のNY白金950ドル以下は、中長期的な買い場となるかもしれない。

4月の季節傾向は強気

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ ゴムRSS 3号先物～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「4月の月間騰落傾向は、売り優勢の時間帯となる。タイなどの生産地は、ウィンタリング（落葉期＝減産期）の影響から供給がタイトになっているものの、ウィンタリングは、4月のソクラン（水祭り）までで、マーケットは減産期明けを織り込む動きとなりやすい。
- ゴムと相関の高い原油市場も、暖房油のピークアウトする時間帯で、米国による追加の戦略石油備蓄放出もあり、3月の高値で目先の高値を見た可能性もある。夏場に向けて、高値更新の可能性は残るものの、足元では下値の限度を試す流れが先行しそうだ。4月上旬の高値は、買い玉の利食い優先、戻り売り対処としたい」とした。先週のRSS3号は、中国休場中の投機的な買い仕掛けに急騰したが、休場明けの上海ゴムが休場前比マイナス圏に沈むと、戻りを売られた。
- 上海ゴムは中国各地でロックダウンが実施され工場稼働停止等も影響して上値は重いが、国内は円安が下値を支えている。

【今週見通し・戦略】

- 中国政府は、今年の経済成長率を5.5%としている。昨年の8.1%成長から急激な減速。5日に発表された世界銀行の予想は5.0%。中国のゼロコロナ政策、米国の金融引き締め、ウクライナ情勢などが、中国の景気回復の足を引っ張るとしている。中国は、世界最大の天然ゴム消費国であり、同国景気が減速となれば、天然ゴム価格の上値抑制要因。
- 13日～15日のソンクラン(水祭り)を終えると、産地では、ウィンタリング(落葉期＝減産期)明けが織り込まれてくる。RSS3号先限は、250円を割り込んでくると、ダブルトップが意識される。

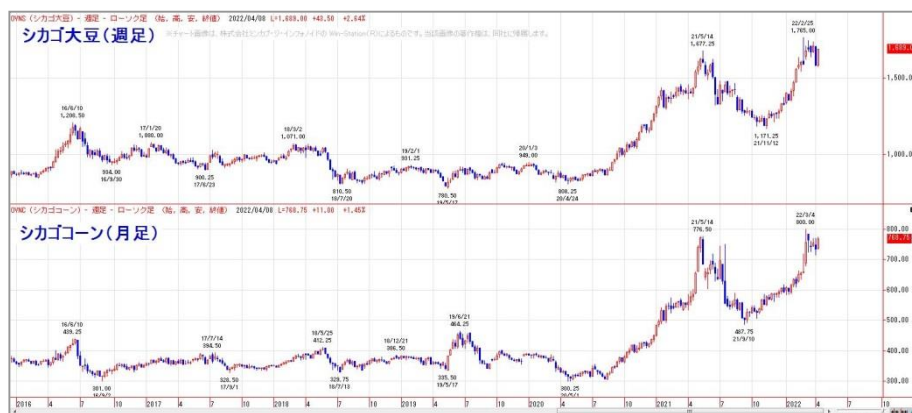
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ 穀物市場(大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「低在庫率で始まる今年の天候相場は、押し目買い主体の戦略で対処したい」としたが、先週のシカゴ穀物は、堅調推移。
- 先週末のシカゴ穀物は、大豆は需給報告で米国内の期末在庫予測が引き下げられ、ブラジル、パラグアイの生産量予測が下方修正されたことで世界的な需給引き締めに対する警戒感から大幅高。コーンは、需給報告で米国の輸出見通しは前月と同量に据え置かれながらもウクライナの輸出予測が下方修正されたことが強気材料視されたほか、世界的な需給引き締め観測が示された小麦の堅調な足取りや、大豆の大幅高を受けて買い優勢となった。
- CFTC建玉明細(4/5現在)によると、大豆の大口投機玉は198,924枚の買い越し。前週(206,469枚の買い越し)から縮小。コーンは487,073枚の買い越し。前週(482,092枚の買い越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

- 大豆は、ロシアによるウクライナ軍事への侵攻が長引くなか、両国からの油糧種子供給引き締めりが引き続き警戒されている一方、ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)が、21/22年度の大豆生産量予測をこれまでの予測1億2547万1000トンから1億2243万1000トンへ下方修正し、輸出货量予測もこれまでの8010万トンから7700万トンに引き下げたことで、米輸出増加期待が高まると見られる。
- シカゴコーンは、小麦、原油相場の動きに左右される展開だが、作付け意向面積が8949万エーカーとなり、前年度の作付面積9335万7000エーカー、事前予想の平均値は9199万5000エーカーを下回った。大豆同様、期末在庫率は一桁台で押し目買い主体の戦術の時間帯。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ 原油市場（ドバイ原油・CME原油指数）～

調査課

菊川 弘之

【前週レビュー】

調整入り



- 先週レポートで「NY原油の4月の月間騰落率は、買い方優勢で、戦略石油備蓄(SPR)放出や、イランの核合意復帰観測から調整が入って出る安値は、米ドライブシーズンのピークを迎える夏にかけての買い場となる可能性も。新たな材料が出てこなければ、夏場にかけて、100ドルを挟んだ高値保合がメインシナリオ」としたが、先週のNY原油(5月限)は、調整継続となった。国際エネルギー機関(IEA)が6000万バレルの備蓄の追加放出を決めた。協調して合計1億2000万バレルの石油備蓄を放出する。
- 先週末のNY原油(5月限)は、4営業日ぶりに反発した。次週の石油輸出国機構(OPEC)や国際エネルギー機関(IEA)、米エネルギー情報局(EIA)が月報を公表することを前に、前日までの続落で水準を切り下げいていたため、週末を前に持ち高調整や値ごろ感からの買いが入った。経済制裁や自主的な取引停止を背景に4月以降のロシアの供給が急減すると見られていることが相場を支えた。3月のロシアの生産量や供給量の変動は限定的だったが、4月は下振れが鮮明になるとみられている。ロイター通信によると、ロシアの3月の生産量は日量1101万バレルで、4月1～6日は同1052万バレルまで減少している。
- 中国で新型コロナウイルスの流行が一段と拡大していることは需要下振れ懸念を強めている。感染力が強いオミクロン株に対しても中国政府はゼロコロナ政策を維持し、封じ込めに躍起となっている。上海の都市封鎖は世界的な供給網の混乱にもつながっており、中国以外の景気見通しも悪化させている。
- CFTC建玉明細(4/5現在)によると大口投機玉は、308,594枚の買い越し。前週(318,731枚の買い越し)から縮小。

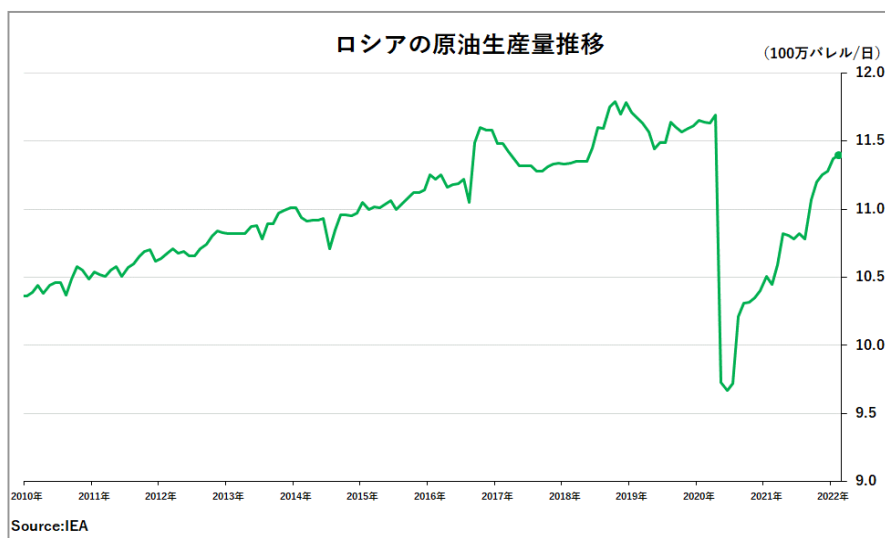
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/11～4/17)

～ 原油市場（ドバイ原油・CME原油指数）～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 3月のロシアの生産量や供給量の変動は限定的だったが、4月は下振れが鮮明になるとみられている。ロイター通信によると、ロシアの3月の生産量は日量1101万バレルで、前月比0.6%減だった。4月1～6日は同1052万バレルまで減少している。
- 事前見通しでは同250万～300万バレルの供給減となっている。ちなみにロシアのウクライナ侵攻直前の原油輸出量は同620万バレル、うち欧米向けが同430万バレル。
- NY原油(5月限)は、世界的に供給不足が続いていることからネックライン(3/15安値:92.2ドル)は維持しているものの、ネックラインを明確に割り込むと、ダブルトップが意識されテクニカル的な下押し圧力が出るかもしれない。その場合、一目均衡表からは、N=82.32ドル、V=67.76ドル、E=57.88ドルが下値目標値としてカウント可能。
- ただし、NY原油の4月の月間騰落率は、買い方優勢で、テクニカル的な売りから出た安値は、米ドライブシーズンのピークを迎える夏にかけての買い場となる可能性も。新たな材料が出てくなければ、夏場にかけて、100ドルを挟んだ高値保合がメインシナリオ。2021年12月安値～2022年3月高値までの上昇に対する61.8%押しは86.4ドル。同水準は価格帯別出来高の厚い支持線。
- ロシアのラブロフ外相は7日、ウクライナから停戦合意案を受け取ったがロシアの要求が盛り込まれていないため拒否する考えを示したと伝わっている。ロシアやウクライナ・欧州は早期停戦を望むも、米国・英国は長期化でプーチン体制の弱体化を狙う感触。ただ、バイデン支持率低下に対して、プーチン大統領支持率は上昇中。

ロシア産減産の影響は
4月から本格化

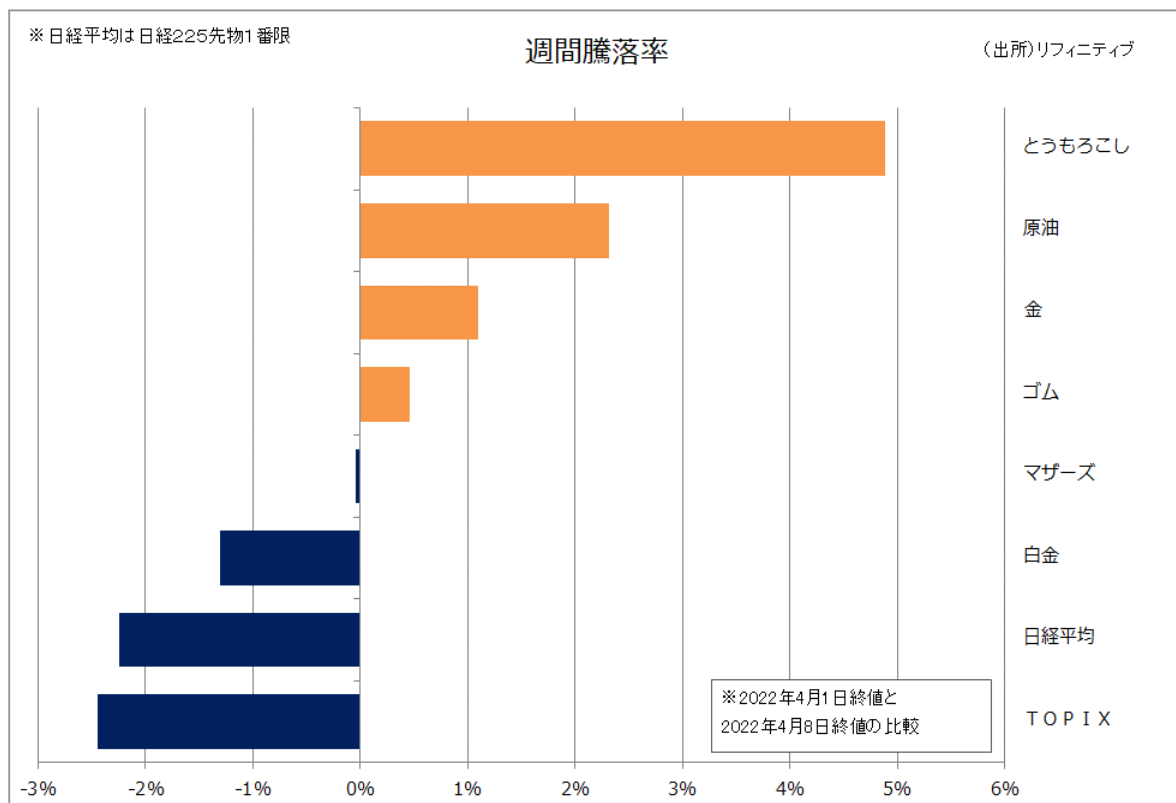
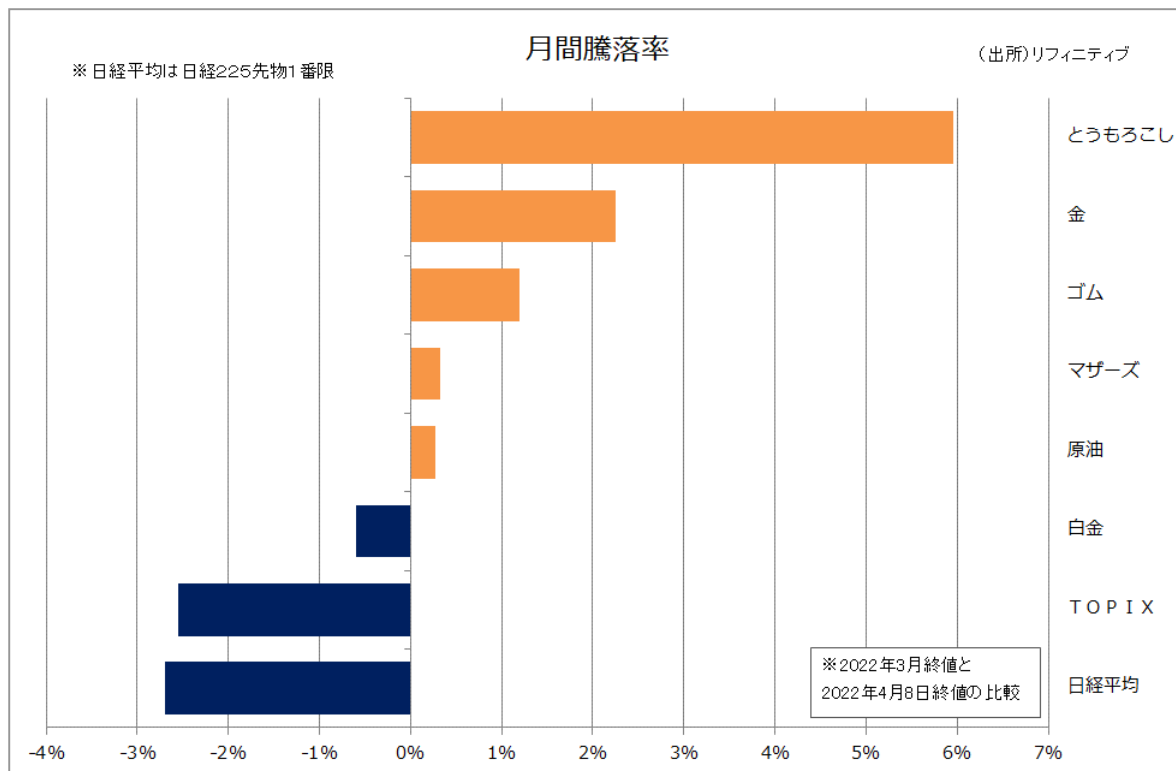
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(4/11~4/17)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
4月11日(月)	10:30	中国	3月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	8.8
	10:30	中国	3月	消費者物価指数 (CPI) (前年比)	0.9%
	15:00	英国	2月	貿易収支 (GBP)	-26.499 (十億)
	16:00	英国	2月	国内総生産 (GDP) 予測値 (3ヵ月比)	1.1%
	16:00	英国	2月	国内総生産 (GDP) 予測値 (前月比)	0.8%
	16:00	英国	2月	国内総生産 (GDP) 予測値 (前年比)	10.0%
	16:00	英国	2月	鉱工業生産 (前年比)	2.3%
	16:00	英国	2月	製造業生産 (前年比)	3.6%
		中国	3月	マネーサプライ M2 (前年比)	9.2%
4月12日(火)		中国	3月	人民元建て新規融資	1,230.0 (十億)
	8:50	日本	3月	企業物価指数 (前月比)	0.8%
	8:50	日本	3月	企業物価指数 (前年比)	9.3%
	15:00	ドイツ	3月	消費者物価指数 (CPI) 改定値 (前年比)	7.3%
	15:00	ドイツ	3月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 改定値 (前年比)	7.6%
	15:00	英国	3月	失業手当受給者数増減	-48.1 (千)
	15:00	英国	2月	失業率 (ILO 基準)	3.9%
	15:00	英国	2月	就業者数増減	-12 (千)
	15:00	英国	2月	週間平均賃金 3ヵ月ベース (前年比)	4.8%
	15:00	英国	2月	平均賃金 除ボーナス	3.8%
	18:00	ドイツ	4月	ZEW 景気期待指数	-39.3
	18:00	ドイツ	4月	ZEW 現況指数	-21.4
	21:30	米国	3月	コア消費者物価指数 (CPI) (前年比) 原数値	6.4%
	21:30	米国	3月	消費者物価指数 (CPI) (前年比) 原数値	7.9%
4月13日(水)	---	---	---	OPEC月報	
	8:50	日本	2月	機械受注 船舶・電力除く民需 (前年比)	5.1%
	12:00	中国	3月	輸出 (前年比)	16.3%
	12:00	中国	3月	輸入 (前年比)	15.5%
	12:00	中国	3月	貿易収支 (USD)	115.95 (十億)
	15:00	英国	3月	生産者物価投入指数 (PPI) (前年比) 原数値	14.7%
	15:00	英国	3月	生産者物価産出指数 (PPI) (前年比) 原数値	10.1%
	15:00	英国	3月	生産者物価指数 (PPI) コア産出指数 (前年比) 原数値	9.9%
	18:00	ユーロ圏	2月	鉱工業生産 (前年比)	-1.3
	21:30	米国	3月	生産者物価指数 (PPI) 最終需要 (前年比)	10.0%
	21:30	米国	3月	生産者物価指数 (PPI) 食品・エネルギー除く (前年比)	8.4%
	18:00	---	---	IEA月報	
4月14日(木)	20:45	ユーロ圏	4月	ECB リファイナンス 金利	0.00%
	20:45	ユーロ圏	4月	ECB 預金金利	-0.50%
	21:30	米国	3月	輸入物価 (前月比)	1.4%
	21:30	米国	月4日, 週	新規失業保険申請件数	
	21:30	米国	月28日, 週	継続失業保険受給総数	
	21:30	米国	3月	小売売上高 (前月比)	0.3%
	21:30	米国	3月	小売売上高 自動車除く (前月比)	0.2%
	21:30	米国	3月	小売業販売高	-1.2%
	23:00	米国	2月	企業在庫 (前月比)	1.1%
	23:00	米国	4月	ミシガン大 消費者信頼感指数 速報値	59.4
	---	ユーロ圏	---	ECB理事会	
4月15日(金)	16:00	英国	3月	消費者物価指数 (CPI) (前年比)	6.2%
	16:00	英国	3月	小売物価指数 (前年比)	8.2%
	16:00	英国	3月	小売物価指数 除住宅金利 (前年比)	8.3%
	21:30	米国	4月	NY 州製造業業況指数	-11.8
	22:15	米国	3月	鉱工業生産 (前月比)	0.5
	22:15	米国	3月	設備稼働率 季調値	77.6
	4:30	米国	前週分	OFTO建玉明細	
	休場	米国	---	グッド・フライデー	
	納会	日本	---	一般大豆2022年4月限納会日	
	納会	日本	---	トウモロコシ2022年5月限納会日	
4月16日(土)					
4月17日(日)					

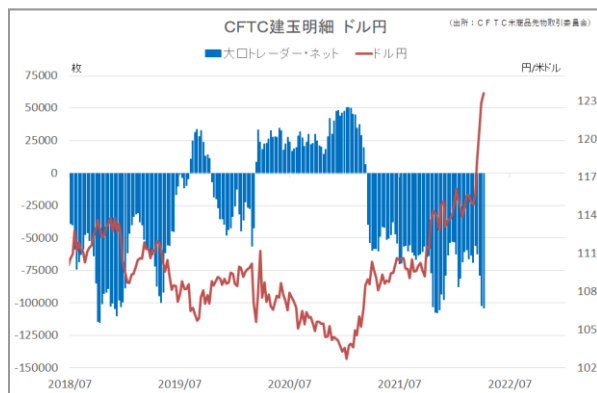
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

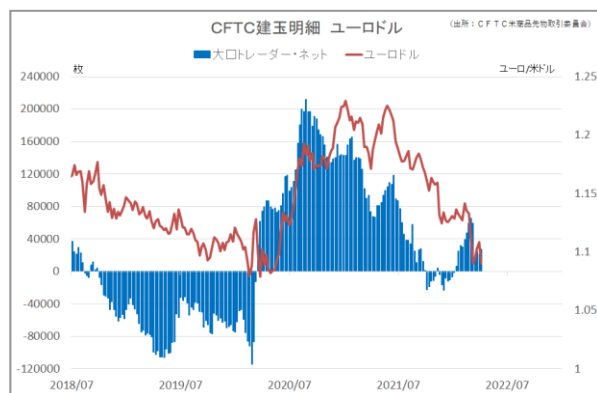


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

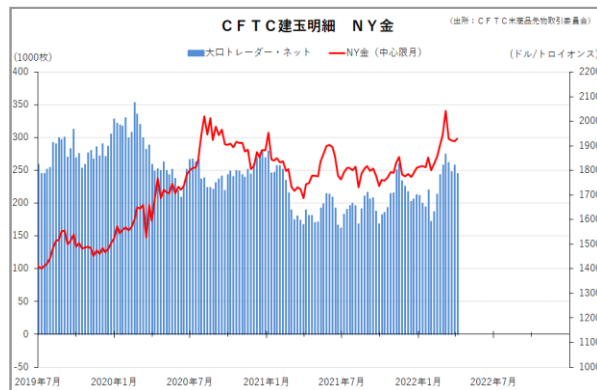
【CFTC建玉明細】



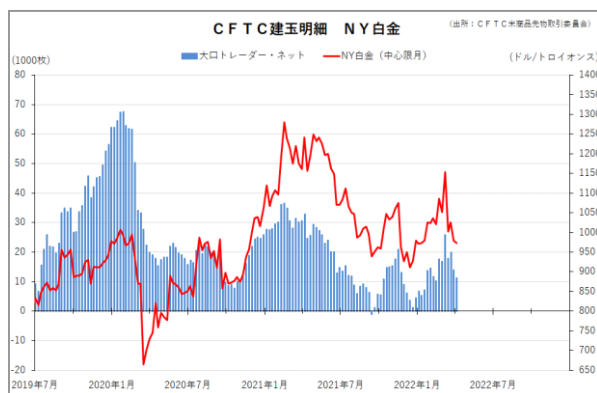
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/8	15,548	71,404	-55,856	115.66
2022/3/15	34,016	96,356	-62,340	118.28
2022/3/22	36,676	115,158	-78,482	120.8
2022/3/29	15,274	117,405	-102,131	122.84
2022/4/5	14,583	118,412	-103,829	123.6
前週比	-691	1,007	-1,698	0.76



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/8	242,683	183,839	58,844	1.0899
2022/3/15	202,040	183,246	18,794	1.0951
2022/3/22	207,051	183,208	23,843	1.1027
2022/3/29	200,043	178,669	21,374	1.1085
2022/4/5	210,914	183,544	27,370	1.0903
前週比	10,871	4,875	5,996	-0.0182



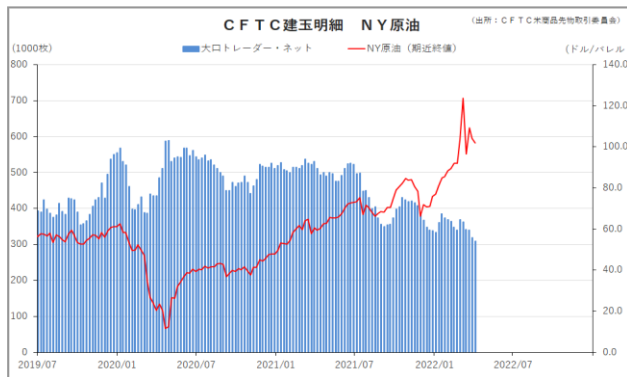
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/8	364,618	90,230	274,388	2043.3
2022/3/15	346,731	84,943	261,788	1929.7
2022/3/22	328,660	80,628	248,032	1921.5
2022/3/29	327,632	70,036	257,596	1918
2022/4/5	324,570	79,029	245,541	1927.5
前週比	-3,062	8,993	-12,055	9.5



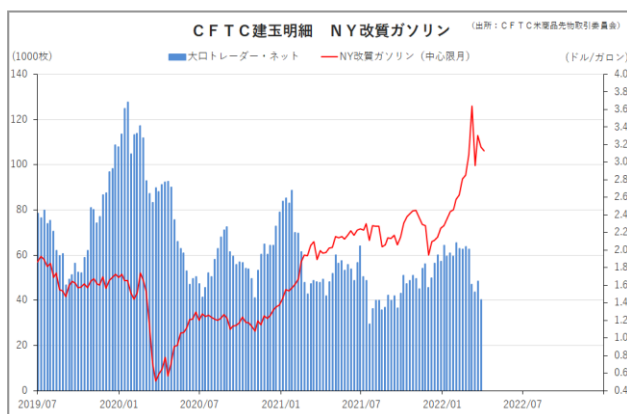
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/8	41,758	15,925	25,833	1153.2
2022/3/15	33,833	15,901	17,932	1002.5
2022/3/22	32,184	12,369	19,815	1025.1
2022/3/29	29,585	15,584	14,001	978.8
2022/4/5	28,827	17,537	11,290	973.1
前週比	-758	1,953	-2,711	-5.7

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

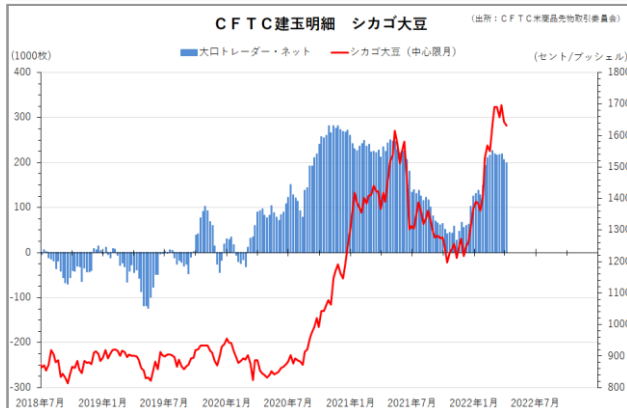
【CFTC建玉明細】



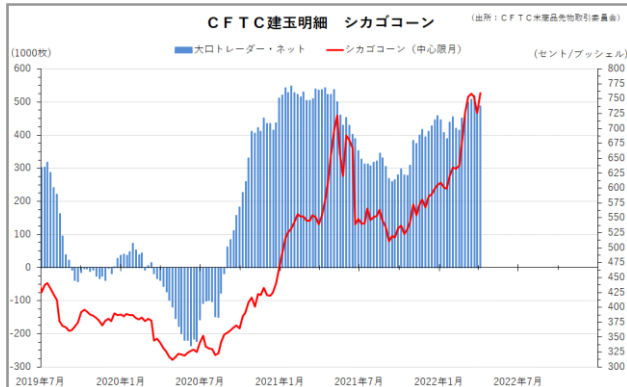
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/8	455,339	93,674	361,665	123.7
2022/3/15	444,601	102,786	341,815	96.44
2022/3/22	436,560	96,591	339,969	109.27
2022/3/29	420,097	101,366	318,731	104.24
2022/4/5	413,132	104,538	308,594	101.96
前週比	-6,965	3,172	-10,137	-2.28



NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/8	82,887	35,987	46,900	3.6392
2022/3/15	76,383	32,781	43,602	2.9657
2022/3/22	78,644	30,274	48,370	3.3046
2022/3/29	74,554	34,352	40,202	3.1767
2022/4/5	75,111	32,148	42,963	3.1311
前週比	557	-2,204	2,761	-0.0456



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/8	263,044	46,467	216,577	1689.75
2022/3/15	265,949	48,350	217,599	1658.75
2022/3/22	265,191	46,555	218,636	1696.50
2022/3/29	253,726	47,257	206,469	1643.00
2022/4/5	243,805	44,881	198,924	1631.00
前週比	-9,921	-2,376	-7,545	-12.00



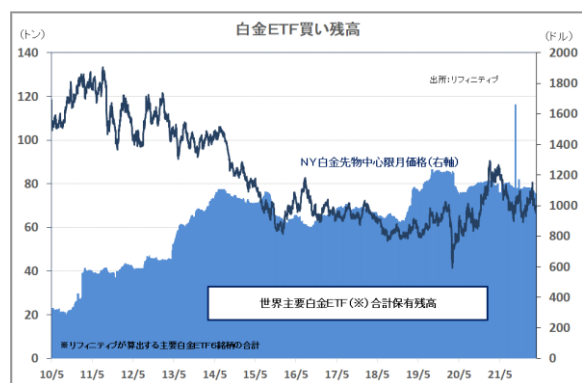
シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/8	558,302	60,269	498,033	753.00
2022/3/15	571,419	64,213	507,206	758.00
2022/3/22	582,844	63,488	519,356	753.00
2022/3/29	552,536	70,444	482,092	726.25
2022/4/5	558,043	70,970	487,073	759.75
前週比	5,507	526	4,981	33.50

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

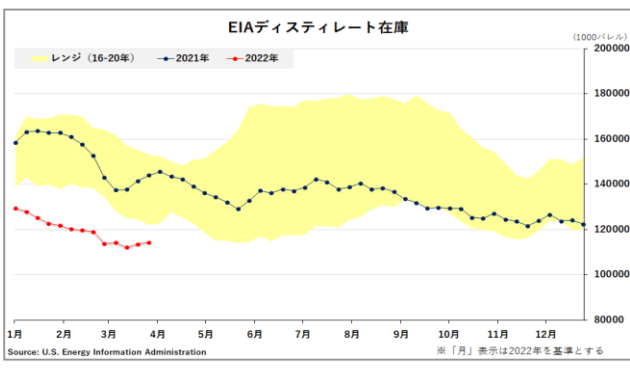
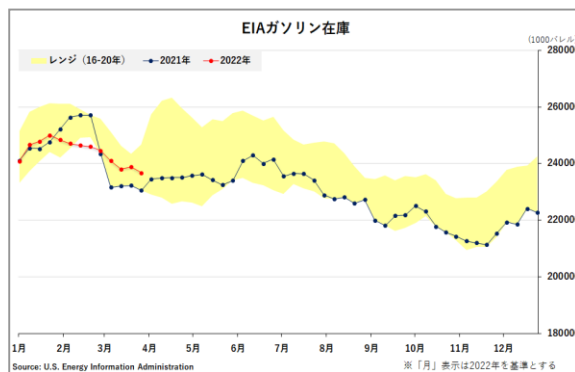
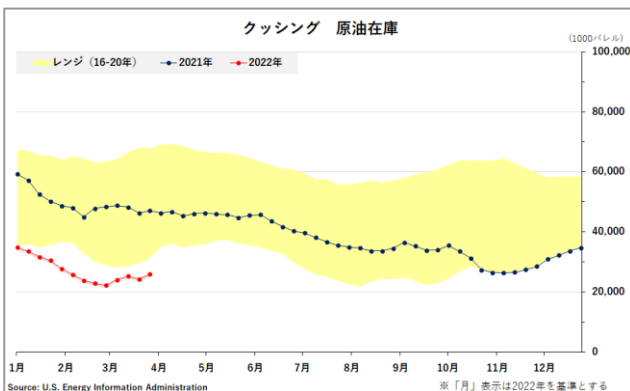
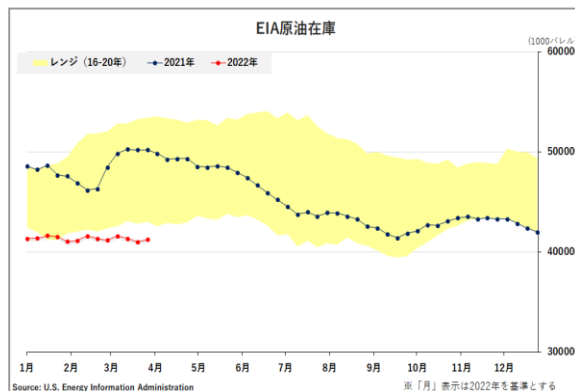


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/4/8	1090.49	+3.19
2022/4/7	1087.30	±0
2022/4/6	1087.30	±0
2022/4/5	1087.30	-2.68
2022/4/4	1089.98	-1.75
2022/4/1	1091.73	+0.29
2022/3/31	1091.44	±0



日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/4/8	75,230.32	-0.12
2022/4/7	75,230.44	-0.16
2022/4/6	75,230.60	-0.16
2022/4/5	75,230.75	+12.10
2022/4/4	75,218.65	-277.97
2022/4/1	75,496.62	-0.12
2022/3/31	75,496.75	±0

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。